

## 株式会社タチエス 2023年3月期 決算説明会 質疑応答要旨

実施日時：2023年5月26日 17:00~18:00

### 【人権デューデリジェンスについて】

**Q1. 説明資料 P28 の人権デューデリジェンスの具体的な時間軸をお教えいただきたい。**

**A1.** 22年度から23年度上期を目途とし人権方針及び人権デューデリジェンスを策定し、それ以降はグループ内で実施していくというスケジュールで考えている。

**Q2. 人権デューデリジェンスの重点項目として、「人権に配慮した安心・安全な商品・サービスの提供」を策定とのことだが、具体的に触れられる部分があればお教えいただきたい。**

**A2.** 一部「新化」でも紹介したが、性別や国籍を問わず色々な方がおりますので、それらの方々が働きやすい環境やそれに沿ったソフトウェア、ハードウェアを、人権デューデリジェンスに沿った形で設定していくことを考えている。

### 【合理化の内容について】

**Q3. 説明資料 P6 の営業損益の山高要因分析について、75億円の合理化の影響が非常に大きいと見られる。実際は原材料高のマイナス要因が入っている認識でいるのだが、仮に昨年度のインフレの影響が無ければどの程度まで進捗したと想定されているかお聞かせいただきたい。**

**A3.** プラス要因は合理化・適正な価格転嫁、マイナス要因は原材料の高騰によるもの。コスト要因の具体的な数字を開示していないため詳細な数字は申し上げられないが、昨年度は一昨年と比べ、市況・インフレに伴うコスト増の影響はほぼ倍になっている状況。そしてそれらを昨年度は得意先に説明をし、基本的には吸収できている。一部インフレ等でのリカバリーは遅れているが、得意先と粘り強く交渉をし、昨年度は収益を確保することができた。従って昨年度はインフレの影響が無ければという事ではなく、このような状態であってもしっかりとマネージし収益を出したとご理解いただきたい。

### 【中南米の利益改善について】

**Q4. 特に中南米において、第4四半期の営業利益が一気に改善した。第3四半期までは出遅れている印象があったが第4四半期の短期で改善した要因をお教えいただきたい。**

**A4.** 中南米のみならず、得意先との交渉は年度の後半で決着し回収するため、どうしても第4四半期に営業利益が集中して見えてしまう背景がある。価格高騰の影響については第1四半期から得意先と交渉をしている。ただし、価格については年間の台数に変動があり、中々確定ができず交渉が長引き決算期に寄ってしまった。昨年度は、早く交渉を開始したことに加え、地域毎に得意先と交渉するのではなく、グローバルで進捗業況の共有・整合性を取りながら常にタイムリーに交渉をするやり方に改善した。その結果、特にメキシコで得意先の理解を得ることができ、業績の回復に繋がったと考えている。

**【通期の業績予想について】**

**Q5.** 2024年3月期の業績予想は今回開示しておらず、中期経営計画も環境の変化を受けて進捗を精査中とのことだが、基本的には下方修正する方向ではなく収益改善の取り組みを更に行っていく方向であると認識して良いか？

**A5.** おっしゃる通り。我々としては、この中期経営計画（TVE）で目指している ROE 8%を中心とした目標値は変えていない。その達成に向け、前半2年が終わったところで振り返りをしたところ、様々な環境変化により元々計画していた活動だけでは目標レベルを達成できないことが判明し、その挽回策を鋭意検討中。目標値は変えないが、これまでの施策に加えて追加で施策を打っていくことが必要。この活動を進めるためには様々なステークホルダーとの調整が必要なので、整理ができた時点でできるだけ早く皆様に公表したいと考えている。

以上